

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 令和5年2月

法人名	NPO 法人ワーカーズ コープかがやき	代表者	新井 厚美	法人・ 事業所 の特徴	一人ぼっちにしない、寝たきりにならないしないを理念に、利用者一人一人に寄り添い、「通い」「訪問」「泊まり」を柔軟に組み合わせることにより、住み慣れた地域でその人らしい暮らしが続けられるように支援いたします。
事業所名	四季のベンチ	管理者	松崎 裕子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
										6

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	支援内容を精査し、本人の自立を意識して支援計画を見直していく。事業所が支援することで過度な依存につながったり、できていたことができなくなるといったことがないようにする。	自立支援を念頭に置き、全職員が参加してミーティングを行い、プランや個別計画書の見直しを行った。	コロナの為運営推進会議の開催が少なく実情が分かりにくい。	人員が定着しており、離職する職員がいない。小規模のメリットである顔なじみのいる「通い・訪問・泊」が提供できアットホームな場所になっている。今後も、全職員で利用者さんに何が必要かを話し合い、考えていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	去年に引き続き、コロナ感染予防の徹底。換気をする。利用者さんに負担の無い方法で感染予防を続けていく。 外出が難しい時もしつらえを工夫し季節を感じられるようにする。	季節に合わせて利用者さんと一緒に創作活動をし、室内に飾っていた。コロナの消毒を1日3回しているが、玄関は消毒しやすいようにシンプルになり過ぎた。	入口が駐車場の奥にあるので、外から見ただけでは何をしている場所か分からない。 人の出入りが激しい場所である。	コロナ感染症だけでなくインフルエンザにも注意して、1日3回の消毒と換気を続ける。ボランティアの方の出入りを制限しているため、室内の飾りを季節感のあるものにする。
C. 事業所と地域のかかわり	地域ケア会議などで地域の人にも認知症ケアに参加してもらい、地域で認知症と関わっていく働きかけをする。	認知症ケア会議は、必要な時に開催できた。近所の人を交えて行えた。また事業所では「認知症サポーター養成講座」をし、20名ほど参加してくださった。	・コロナのために人とかかわることが少なくなっている ・ボランティア受け入れも制限行っている。	コロナの為人とのかかわりが制限されているが、外出する機会をつくり、引きこもらない。運営推進会議や組合活動に参加して、地域の意見を聞く。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>地域で最期まで生活できる支援をするために医療との連携をしっかり行う。コロナのために中止になっている地域の行事が再開されるように地域に協力していく。</p>	<p>最後まで地域でというのが、実際には家族の協力が絶対条件となる。ある程度の介護度になると、施設入居を希望される。特に一人暮らしの認知症の方が生活を続けていくことはかなり困難である。 「組合員の集い」は開催でき、組合員の話聞くことができた。地区で行っていた「健康と福祉の集い」の再開に協力している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と遮断されていないことが大切。</li> <li>・小学生との交流や、中学生の福祉体験学習の場に利用してもらっていたが、コロナのためなくなってしまい、さみしい。</li> <li>・佐久大学のボランティア研修を受け入れる予定</li> </ul>	<p>利用者さんの中には、家族も問題を抱えている場合が少なくない。例えば、子供さんが障害を持っている、老老介護、認知介護、介護放棄など。利用者さんだけでなく、家族や置かれた環境などの支援も続けていく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>民生委員さんから事例を提示してもらい、地域の事例検討を来年度には行いたい</p>	<p>運営推進会議の開催自体が少なく、なかなか地域の困りごとの話が聞けなかった。また、民生委員の交代の時期が重なり、十分に話ができなかった。</p>	<p>運営推進会議自体の開催が少なかった。 民生員の交代の時期が、年度途中で引継ぎが難しい。</p>	<p>運営推進会議だけでは、四季のベンチの様子が分かりにくい。コロナが治まれば見学やボランティアとして実際に利用者さんとかかわってもらおう。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>毎年、水害については避難場所の確認をする。 災害があってもできるだけ事業を継続できるようにBCP（事業継続計画）をたてる。 →高齢協として各事業所でBCPの担当を決め計画を立てる準備をしています。</p>	<p>とりあえずBCPは出来上がり、職員みんなで周知している。10月には発電機を実際に稼働させてみた。12月には保存食の購入をした。コロナ感染については、国や県の指標が変わるので、その都度対応をしなくてはならない。</p>	<p>水害に関してはこの地区の問題は解決されていない。地域で声を掛け合って、逃げ遅れることがないようにしないといけない。</p>	<p>BCP（事業継続計画）は作ったが、実際にコロナ感染症のクラスターがでたときに、あまり活用できなかった。問題点を洗い出し、ブラッシュアップして、活用しやすいものに常に周世していく。</p>